

短報

アンピンチビゲンゴロウの熊本県からの初記録

中菌洋行

*1 熊本県博物館ネットワークセンター

キーワード: 熊本県, 初記録, アンピンチビゲンゴロウ

はじめに

アンピンチビゲンゴロウ *Hydroglyphus flammulatus* (Sharp, 1882) は、上手ほか(2003)により八重山諸島(石垣島, 西表島, 与那国島)から日本初記録として報告された, 体長2.2-2.5mmの微小なゲンゴロウの一種である。その後10年間ほど国内からの記録が途絶えていたものの, 2013年に福岡県から報告されたのを皮切りに, 長崎県(平戸島, 福江島), 島根県隠岐諸島(中ノ島), 愛媛県, 山口県から記録が相次いだ(井上ほか 2013, 深川 2014, 林ほか 2015, 渡部ほか 2017, 石黒 2018, 相本 2020)。しかしながら九州以北におけるこれらの記録は非常に散発的で, いずれも1個体ずつの確認となっている。生態も含めてまだまだ不明な点が多く, 環境省のレッドリスト(2020)では情報不足とされている。

筆者はこれまで記録のない熊本県において本種を採集しているので, 以下の通り報告する。

採集記録

アンピンチビゲンゴロウ *Hydroglyphus flammulatus* (Sharp, 1882)(図1)

2♂, 熊本県宇土市花園町, 31-X-2022, 中菌洋行採集・熊本県博物館ネットワークセンター保管(NB15-012311~NB15-012312)

1♂, 熊本県宇土市花園町, 3-XI-2022, 中菌洋行採集・保管

本種が確認されたのは雁回山の麓にあるため池で, 水面はヒシ *Trapa jeholensis* Nakai に覆われており, 岸边にはイネ科植物が抽水状態で繁茂する浅瀬が広がっている(図2)。本種はその浅瀬の部分から, 多数のチビゲンゴロウ *Hydroglyphus japonicus* (Sharp, 1873) に混じって得られた。



図1 アンピンチビゲンゴロウ(右下は雄交尾器)。



図2 アンピンチビゲンゴロウの確認環境。

筆者は2018年にもこのため池を訪れ, 水生昆虫の採集を行っているが, そのときはチビゲンゴロウのみで本種は確認できていない。本種とチビゲンゴロウはよく似ており, また, ともに微小種であるため, 一方のみが採れた場合は同定に悩むことも多いが, 本種の方がチビゲンゴロウ(体長2.0mm前後)と比較するとやや大きく, 細長い体型で, 上翅には独特の斑紋があるため, 両種が同時に採れた場合には比較的容易に区別することができる(図3)。また, 本種の雌は触角第10節が「く」の字

2022年11月15日受付 2023年2月21日受理

*1 熊本県宇城市松橋町豊福1695

状に湾曲するため(中島ほか 2020), 雌であればより確実に同定できるとされているが, 今回確認された個体はいずれも雄であったため, 交尾器を検鏡し, その形状から本種であることを確認した。



図3 アンピンチビゲンゴロウ(左上)とチビゲンゴロウ(右下)。

今回特に注目されるのは, きわめて少数ではあるものの複数の個体が同一地点でほぼ同時に得られた点である。冒頭でも述べたように, 本種はこれまで九州以北では1個体ずつしか確認されておらず, 渡部ほか(2017)や相本(2020)は「定着している可能性は低く, 南方から飛来してきた」と推測している。今回確認された複数個体の本種が, 同地で発生したものなのか, 多数の個体が南方から飛来してきたのか, 或いはそれら両方が同時に起こったのかを今回の結果のみから推定するのは困難であるが, 中島淳博士からの私信によると, 福岡県では2022年になって各地で本種の採集・観察例が相次いでおり, 現在報文を作成中とのことである。果たして本種が九州の冬を越し, 定着することができるのか, 今後の動向が注目される。

謝辞

福岡県保健環境研究所の中島淳博士, 山口県の相本篤志氏には, 文献の入手にあたり大変お世話になった。中島淳博士には本種の九州内における分布情報についてもご教示いただいた。これらの方々はこの場を借りて厚く御礼申し上げます。

引用文献

相本篤志. 2020. 山口県におけるアンピンチビゲンゴロウの初記録. さやばねニューシリーズ, 38: 49-50.
深川元太郎. 2014. 長崎県におけるアンピンチビゲンゴロウ(コウチュウ目ゲンゴロウ科)の記録. 長崎県生物学会誌, 75: 32-33.

林成多・門脇久志・松田隆嗣・深谷治・近見芳恵. 2015. 隠岐諸島における昆虫類分布調査IV. ホシザキグリーン財団研究報告, 18: 179-196.
井上大輔・福岡県立北九州高等学校魚部・北九州市響灘ビオトープ(編). 2013. 魚部・地域の自然図鑑シリーズ4 響灘ビオトープ開園1周年記念誌 響灘ビオトープの水辺の生きもの. 80pp. 福岡県立北九州高等学校魚部.
石黒昌貴. 2018. 長崎県におけるアンピンチビゲンゴロウの記録. 月刊むし, 569: 51-52.
上手雄貴・疋田直之・佐藤正孝. 2003. 日本初記録のアンピンチビゲンゴロウ. 甲虫ニュース, 142: 15-17.
環境省. 2020. 環境省レッドリスト2020. URL: <https://www.env.go.jp/content/900515981.pdf> (最終確認日:2022年11月21日).
中島淳・林成多・石田和男・北野忠・吉富博之. 2020. ネイチャーガイド 日本の水生昆虫. 352pp. 文一総合出版, 東京.
渡部晃平・北野忠・上手雄貴. 2017. 四国におけるゲンゴロウ科2種の初記録. さやばねニューシリーズ, 28: 19-21.